

令和 6 年度

第 1 回岐阜県スマート農業推進協議会

議事要旨

開催日時：令和 6 年 6 月 2 4 日

開催場所：岐阜県庁舎 3 階 3 0 2 議室

## 令和6年度 第1回岐阜県スマート農業推進協議会 議事要旨

1 開催日時：令和6年6月24日（月） 13：30～15：00

2 開催場所：岐阜県庁舎3階 302会議室

3 出席者：別添「出席者名簿」のとおり

4 内容

（1）あいさつ

高井農政部次長

（2）令和6年度の取組状況について

ア 岐阜県スマート農業推進計画について

＜事務局から説明＞

イ 推進計画の目標達成状況について

＜事務局から説明＞

### 【主な質疑・意見等】

嶋津会長 中山間地域導入322経営体の内訳は。

（事務局） 土地利用型農業の導入経営体が多い傾向である。

嶋津会長 導入機械は田植機やドローン、コンバインが多いが、地域的な特徴はあるか。

（事務局） 中山間地域ではリモコン草刈機の導入が多い傾向である。また、農業用ドローンは全域で導入されている。

嶋津会長 中山間地域の農業は経営規模が小さいため、平坦地域に比べコスト高となっていないか。

（事務局） 中山間地域の規模の小さい経営体については、コスト削減のため複数農家で共同利用する取組を進めている。

山口委員 導入技術数はどのようにカウントしているのか。

（事務局） 導入実態調査によりカウントしている。同一経営体で2技術以上導入していれば2機として実数をカウントしている。

山口委員 岐阜県では地域によって農業のスタイルが違っている。各地域のスタイルに合ったスマート農業機械の推進が必要である。

（事務局） 従来は平坦地域と中山間地域で分けたスマート農業機械の推進であったが、地域の事情に応じたスマート農業技術を地域毎に推進

する方針としている。

松下委員 研修会について、未開催地域で研修会を開催する場合と拠点地域で開催する場合の違いや工夫は。

(事務局) 本年度未開催地域で実施した研修会では、その地域に合ったスマート農業機械を使い、実際に作業を実施し、多くの農業者が関心を示された。一方、拠点で行う研修会では、平坦地域や中山間地域で使われる全般的な技術の説明となっている。今後は拠点での研修会と、未開催地域での研修会を併用して推進する。

松下委員 地域ごとに推進するスマート農業機械について、既に導入されている機械も含め分析されているか。

(事務局) 十分な分析ができていないため、今後、地域ごとに分析して導入すべきスマート農業技術を推進する。

座光寺委員 研修会、実演会、検討会は県側が機械を見せているというものであるが、実際利用されている農業者の姿を見てもらう機会も必要でないか。

(事務局) 国の実証事業を実施している地区では、実際の農業者によりスマート農業機械を利用する実演会を実施している。今後は、県が実施する研修会についても、実際利用されている農業者の意見・使用感を聞く場も検討する。

座光寺委員 実際に利用されている農業者の声の方が、見たり聞いたりするより説得力がある。

平塚委員 地域スマート農業推進協議会のメンバーはどういった構成で、どのような内容を検討されているのか。

(事務局) 農林事務所（10事務所）単位で、市町村、JA、農林事務所のメンバーで構成している。主にスマート農業推進計画の地域での進捗管理をしている。

平塚委員 地域の声拾い上げて、この会で検討しているという事か。

(事務局) 今回報告した取組内容は、地域業議会からの意見も踏まえたものとしている。

嶋津会長 令和5年度までは目標を達成してきたが、今後の見通しはどうか。新規に導入される農業者を増やすのか、既に導入された方に、新たなスマート農業機械の導入を推進するのか。

(事務局) スマート農業計画に掲げる目標は、新規の導入される経営体を増やすという目標としている。

また、機械を導入するだけでなく、そのデータを活用して営農に結び付ける取組も進め、目標達成に向け推進していく。

山田委員 導入機械について、上位5種以外で、最近伸びているもの、今後

増えそうなものは何か。

(事務局) リモコン草刈り機は中山間地域で関心が高い。一方、水田センサや自動給水ゲートなどは、ニーズは高いが導入は進んでいない。

山田委員 畜産関係はどうか。

(事務局) 畜産関係では、自動給餌機や生体センサが導入されている。

嶋津会長 本日は生産者の方にもオブザーバーとして参加いただいている。実際に農業に携わる立場としてご意見・ご助言はないか。

大熊氏 現在、冬春トマトを経営している。環境制御装置は導入済みである。収穫ロボットなども開発されているが、導入コストで足踏みしてしまう。

パート雇用の管理をアナログで記録しているが、それをデータ化し、個々の能力に応じた労務管理が出来るスマート技術が有るとよい。

嶋津会長 オランダなどでは労働者にタグを付けて労務管理がされている。

大熊氏 水田も作付けしているが、先日直進アシスト田植え機の紹介を受けたが、6条植で450万円するという事であった。私の1.3haの水田には過剰であるが、もっと手頃なスマート農業機械が有ると良い。

山口委員 手頃なスマート農業機械がないという声は農業者からよく耳にする。そうした声をメーカーに伝えることも重要である。

橋本氏 2014年に新規就農し、ミニトマトを経営している。早い段階から環境制御装置を導入している。前職が環境制御機器のメーカーの営業であったが、その当時農業者の方から「どう活用したらよいか分からない」という声をよく聞いた。

昨年から露地栽培も開始しているが、トラクターやアシストスーツなど、土地利用型農業の方が機械の効果を実感しやすい。そのため導入が進んでいると感じている。

森氏 ブルーベリーをポット栽培しており、給液管理などは自動化しているが、収穫には人手がかかり、農福事業を立ち上げ人手を確保している。一部でハウス栽培も実施しているが、作業者が収穫作業中に熱中症となる事故が発生した。農作物だけでなく、そこで働く作業者の安全も確保できるスマート技術があると良い。

近藤氏 スマート農業にはコストがかかるが、その効果により、全ての産地で収量や品質が上がれば、結局収益が下がってしまう。出口まで見据え導入を検討する必要がある。

環境制御装置や収穫ロボットなどを入れるにしても、自己の経営に対しどこまでの装備を入れるのが適切であるか、経営面も含め

助言頂けると良い。

(事務局) パートの作業量をデータ化する取組については、農業DXプラットフォームの構築に、そうした管理ができる機能を付加できないか検討していく。

スマート農業機械が高く導入できないという事に対しては、複数の農業者で、共同で導入頂くことを推進している。

直進アシスト機能などは、トラクターでは後付けできる装置も発売されている。こうした装置が田植え機などでも開発されると良いと考えている。

土地利用型農業のスマート技術は効果が分かりやすいものが多いが、データを集め活用する技術については、その機能を活用した効果的な支援が出来ていない状況である。今後はデータを活用した支援も強化し、効果が実感できる体制としていきたい。

経営面でも、「スマート農業機械をどこまで入れるのが適切であるか」という事も踏まえた助言ができるような体制としていきたい。

嶋津会長 頂いた意見を参考に、今後のスマート農業推進施策に活かして頂きたい。

## ウ 目標達成に向けた令和6年度推進施策について

<事務局から説明>

### 【主な質疑・意見等】

大熊氏 スマート農業技術導入支援事業について、補助事業の採択には条件が課されており、その条件がスマート農業技術導入の足かせとなっていないか。

(事務局) 補助事業の条件としては、補助事業者として、認定農業者、認定新規就農者などと制限しているのみである。

大熊氏 以前、センサー付きの暖房機を導入しようとしたところ、面積や収量の向上などが条件となり導入できなかった。

(事務局) 補助事業の採択にあたっては、経営発展など目標が高い計画から採択される仕組みとしている。

大熊氏 補助が受けられなかったため、スマート農業機械は導入できず、安い従来モデルを導入することとなった。

松下委員 補助金で機械を買って収量を上げることは重要であるが、一方で、スマート農業の意識を高めるのも重要。大学など研究機関と組んで効果検証して、スマート農業導入への意識を高めることや、既存機械に改良をして、安価に高い効果を得る取り組みも必

要。また、チョットした開発によって、安価に手軽にスマート農業を実感できる環境が重要。これらの取組により、今までスマート農業に取り組めなかった人を後押しすることが必要。

橋本氏      パートの労務管理としては、アグリボートというソフトがあるため参考にしていただきたい。

嶋津会長    頂いた意見を参考に、今後のスマート農業推進施策を検討頂きたい。